

HOPE レポートⅣ 情報縁:3 世代コミュニケーション

9月15日の敬老の日を前に、今回は「3世代コミュニケーション」をテーマに、「親」(65歳以上の高齢者)が「子」(30代~40代)や「孫」(中高生)とどうコミュニケーションしているのか、その実態を特に「親・子のコミュニケーション」に焦点をあてて調査した。

HOPE レポート: 高齢化が急速に進展するなか、50歳以上のエルダー世代は、いま変化しつつあり、注目されています。このエルダー世代に関する生活意識や現状を探って行くレポートです。

■「親子」コミュニケーションにとって、「孫」はかすがい。

- ・同居している「親子」の場合、ほぼ毎日。別居している「親子」の場合、月1~2回の頻度でコミュニケーションを取っている。
- ・「顔を合わせる頻度」、「電話(携帯電話、ファックス)をする頻度」は「親」の方が高い。これは、「親」の方が積極的、主体的にコミュニケーションを取っているためと思われる。
- ・「親子」の間で最も多い話題は、「孫」のこと。「話していて楽しい内容」も、断然「孫」のことがあげられている。「孫」に次ぐ話題は「健康」で、「父息子」関係の場合は、これに「仕事」が加わってくる。

■「親子」の中で、「母娘」関係は濃密関係。

- ・「親子」の中でも、「母娘」関係がずば抜けてコミュニケーション頻度が高く、一番回数の少ない「父息子」関係に比べると、約5倍にもなる。やり取りは、電話、携帯電話、ファックスを使うことが多い。
- ・「母娘」関係の話題は、「孫」、「健康」に加えて、「親族」「趣味・レジャー」「旅行」など話題が豊富である。

■「親」が今後、一番話しておきたいことは、「相続」のこと。

- ・「今後話しておきたい内容」は、「親」は「相続」のことが一番で、「人生訓・人生経験」、「親の看護・介護」が続く。「子」の「今後話しておきたい内容」は、「親の老後の生活」が一番で、「親の看護・介護」「親の健康」と続く。「親子」共々、「これから」を心配している様子がうかがえる。

■「IT化」で、「親子」コミュニケーションは増える。

- ・携帯電話(PHSを含む)、ファックス、パソコン等のインターネットメールを持っている人に、「親子」のコミュニケーションが変わったかどうかを質問してみると、「子」は、回数、内容とも「変わらない」と答えている人が多いのに対して、「親」の5割が「回数が増えた」、4割が「内容豊富になっ

た」と答えている。

■「敬老の日」のプレゼントは、「みんなで食事」が一番。

- ・「敬老の日のお祝い」で最も多いのは、「外食・食事」。してもらってうれしかったことでも、一番にあげられている。「子供達、その家族全員での食事会」などの回答が多数見られ、やはり、お祝いに「孫」を含めて食事できたことが喜ばれているようである。

この件に関するお問い合わせ先

博報堂エルダービジネス推進室

阪本・本田・井上・田中 TEL.5446-4355/FAX.5446-4399

ホームページURL :: <http://www.h-hope.com>

■今後も、定期的に HOPE レポートの結果をご報告していきます

HOPE レポート I で、従来の枯れて行く老後感とは違う志向性をもった「ニューエルダーの登場」と、50 代以上のエルダー世代の人たちの関係づくりのキーワードとしての「情報縁」を提起しました。II 以降ではその現状と可能性をさらに具体的に探って行きます。

1. [HOPEレポート I](#)

ニューエルダーの登場(5月・既報)

- ・ニューエルダーの登場

2. [HOPEレポート II](#)

情報縁: つながる場(7月・既報)

- ・ユニバーサルデザイン

3. [HOPEレポート III](#)

情報縁: つながる関係(8月・既報)

- ・エルダーの人間関係

4. HOPE レポート IV

情報縁: 3世代コミュニケーション(今回)

- ・エルダーの「子供」「孫」とのコミュニケーション実態

(次回より)

5. HOPE レポート V

情報縁: ニューエルダー

- ・つながるメディア(10月予定)

6. HOPE レポート V

情報源:ニューエルダー

・ つながる関心 (11月予定)

(資料)3世代コミュニケーション調査

調査目的 : 65歳以上の高齢者の「子供」「孫」とのコミュニケーションの実態を、特に「子供とのコミュニケーション」に焦点をあてて、把握する。

対象エリア : 全国

対象サンプル :	65歳以上の高齢者男女個人 (親世代)	100 サンプル	(男性 50 サンプル 女性 50 サンプル)
	30~40代の男女個人 (子供世代)	100 サンプル	(男性 50 サンプル 女性 50 サンプル)
	中学生・高校生 (孫世代)	30 サンプル	(男性 14 サンプル 女性 16 サンプル)

調査方法 : (株)ドウ・ハウスのモニターを通じ、全国から対象者をリクルート。FAX送信によるアンケート自記入式。

調査時期 : 2001年8月10日(金)~19日(日)

「親子」の中で、「母娘」関係は濃密関係。

◎ コミュニケーション頻度は、「親子」が同居している場合と、別居している場合によって、頻度が大きく変わると考えられる。各項目とも、年間にした場合の頻度で回答していただいた。結果、同居している親子の場合、ほぼ毎日。別居している親子の場合、月1~2回の頻度でコミュニケーションをとっている。

◎ 「顔を合わせる頻度」、「電話(携帯電話、FAX)をする頻度」は「親」の方が高い。これは「親」の方が積極的、主体的にコミュニケーションをとっているためと思われる。

◎ 「親子」関係の中でも、「母娘」関係がすば抜けてコミュニケーション頻度が高く、電話、携帯電話、FAXでのやり取りが多い。

▼「親子」のコミュニケーション頻度

(回数/年)

※ただし、手紙のみ通数/年

	N	顔	電	手	携帯電話	FAX	Eメール
--	---	---	---	---	------	-----	------

			せる 頻度	頻 度	す 頻 度	者		者		者		
親 65 歳 以 上 の 高 齢 者	全 体	100	95.0	39.1	1.0	27.0	26.3	45.0	3.2	16.0	1.3	
	子 供 と 同 居	小 計	16	345.0	8.6	0.1	1.0	0.0	9.0	0.0	1.0	0.0
		父→息子	4	303.8	3.0	0.0	1.0	0.0	2.0	0.0	0.0	*
		父→娘	3	356.7	0.0	0.0	0.0	*	1.0	0.0	0.0	*
		母→息子	3	365.0	2.0	0.7	0.0	*	2.0	0.0	0.0	*
		母→娘	6	356.7	20.0	0.0	0.0	*	4.0	0.0	1.0	0.0
	子 供 と 別 居	小 計	84	47.3	44.9	1.2	26.0	27.4	36.0	3.9	15.0	1.3
		父→息子	21	26.0	17.9	0.6	7.0	22.6	9.0	1.3	4.0	0.0
		父→娘	22	75.8	35.0	1.7	9.0	7.4	12.0	2.8	7.0	2.9
		母→息子	12	45.2	22.4	0.6	4.0	6.5	4.0	0.8	3.0	0.0
母→娘		29	42.1	81.4	1.5	6.0	76.7	11.0	8.6	3.0	0.0	
子 30 40 代	全 体	100	52.87	35.44	1.09	67	8.97	69	2.12	51	4.14	
	親 と 同 居	小 計	5	365.0	3.0	0.6	3.0	5.0	2.0	0.0	2.0	0.0
		息子→父	1	365.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0
		娘→父	2	365.0	0.0	0.0	0.0	*	0.0	*	0.0	*
		息子→母	0	*	7.5	1.0	1.0	15.0	0.0	*	0.0	*
		娘→母	2	365.0	0.0	0.5	1.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0
	親 と 別 居	小 計	95	36.4	37.2	1.1	64.0	9.2	67.0	2.2	49.0	9.9
		息子→父	27	50.9	19.0	0.6	15.0	5.2	17.0	0.4	11.0	1.8
		娘→父	4	45.3	50.0	1.8	2.0	10.0	3.0	0.7	2.0	23.5
		息子→母	20	28.1	24.1	1.0	17.0	7.0	17.0	1.4	13.0	1.9
娘→母		44	30.6	53.1	1.5	30.0	12.3	30.0	3.8	23.0	5.2	

「IT化」で、「親子」コミュニケーションは増える。

◎ 携帯電話(PHSを含む)、FAX、パソコン等のインターネットメールを持っている方で、別居している親子のコミュニケーションに変化があったかどうかを見てみると、子供世代は、回数、内容とも変わらないと答えている人が多いのに対して、親世代は5割が「回数が増えた」、4割

が「内容が豊富になった」と答えている。

▼「IT化」による変化

		N	携帯電話・ファックス・Eメール 所有による親子(親孫)の コミュニケーションの変化			
			コミュニケーションの 「回数」		コミュニケーションの 「内容の豊富さ」	
			増えた	変わらない	増えた	変わらない
親 65歳以上の 高齢者	子 供 別 居	43	53.5%	46.5%	41.9%	58.1%
	・携帯電話					
	・ファックス					
	・Eメール所有					
子 30~40代	親 別 居	75	41.3%	58.7%	28.0%	72.0%
	・携帯電話					
	・ファックス					
	・Eメール所有					

「親子」コミュニケーションにとって、「孫」はかすがい。

最近、どのような話をしているのか、話をしていて楽しい内容とは？今後、話をしておきたいことは何か？を親世代、子供世代それぞれに具体的に回答してもらった。

◎ 親子の間で最も多い話題は「孫」。特に「子供」世代では、すべての親子の組み合わせで第1位になっている。「孫」に次ぐ話題は「健康」で、父息子関係の場合は、これに「仕事」が加わってくる。母娘関係は、「孫」「健康」以外にも、「親族」「趣味・レジャー」「旅行」など話題が豊富である。

◎ 「話していて楽しい話題」は、断然「孫」。親世代、子供世代ともに、第1位にあがっている。2位以下はかなり差があって、「趣味・レジャー」「旅行」などが続いている。

◎ 「親」が今後一番話しておきたいことは、「相続」のこと。「人生訓・人生経験」、「親の看護・介護」が続く。しかし、父娘、母娘関係になると、「相続」が2番目になっているところは、興味深い。「子供」世代にとって親と「今後話しておきたい内容」は、「親の老後の生活」が一番で、「親の看護・介護」、「親の健康」と続く。子供世代が、親のこれからを心配している様子がうかがえる。

▼「親子」のコミュニケーション

単位：人

		親(65歳以上の高齢者)					子(30~40代)				
		全体	父 ↓ 息子	父 ↓ 娘	母 ↓ 息子	母 ↓ 娘	全体	息子 ↓ 父	娘 ↓ 父	息子 ↓ 母	娘 ↓ 母
N		100	25	25	15	35	100	28	4	22	46
最近の 話の内容	1位	孫 46	仕事 12	孫 17	健康 8	孫 19	孫 79	孫 18	孫 3	孫 15	孫 43
	2位	健康 35	健康 7	健康 6	孫 5	健康 14	健康 30	仕事 10	健康 1	健康 9	健康 13
	3位	仕事 24	孫/ 趣味・ レジャ ー 5	仕事 5	住宅 4	親族 6	親族 19	健康 7	趣味・ レジャ ー 1	親族 4	親族 10
話して いて 楽し い 内容	1位	孫 61	孫 17	孫 17	孫 6	孫 21	孫 48	孫 13	孫 4	孫 10	孫 21
	2位	趣味・ レジャ ー 14	趣味・ レジャ ー 6	旅行 3	子供 夫婦の 家庭生 活 3	旅行 6	趣味・ レジャ ー 21	趣味・ レジャ ー 6	仕事 1	趣味・ レジャ ー 4	趣味・ レジャ ー 11
	3位	旅行 14	旅行 3	子供 夫婦の 家庭生 活 2	趣味・ レジャ ー 3	家庭生 活 4	旅行 17	旅行 4	- -	旅行 2	旅行 11
今後 話を して お き	1位	相続 25	相続 7	人生 訓・ 人生経 験 7	相続 5	親の 看護・ 介護 10	親の 老後の 生活 34	親の 老後の 生活 6	特 にな し 3	親の 老後の 生活 10	親の 老後の 生活 18
	2位	人生 訓・ 人生経 験 1	親の 看護・ 介護 1	相続 6	人生 訓・ 人生経 験 7	相続 7	親の 看護・ 介護 1	親の 看護・ 介護 1	親の 健康 1	相続 3	親の 看護・ 介護 1

たい 内容	験 19	5		験 3		19	4			13
	親の 看護・ 介護 17	親の 老後の 生活 4	孫の 教育 3	親の 老後の 生活 2	人生 訓・ 人生経 験 7	親の 健康 8	仕事/ 孫の 教育 3	- -	親の 看護・ 介護 2	親の 健康 4

話題で一番多いのは、「孫」の学校生活のこと。

◎「親子」の間で話されている「孫」に関する話題は、「学校生活」が最も多い。「親」の場合、これに「勉強・受験・進学」が続く。「子」の場合、「学校生活」に続く話題として「成長」があがっている。

▼「親子」のコミュニケーションにおける孫

単位：人

	N	孫についての話の内容			
		1位	2位	3位	
親 65 歳 以 上 の 高 齢 者	全体	100	学校生活 (幼稚園・ 保育園含む) 41	勉強・受験・進学/ 健康 26	家庭生活 (出来事、家庭での 様子など)/成長 17
	息子 ↓ 父	25	学校生活 (幼稚園・ 保育園含む) 11	家庭生活 (出来事、家庭での 様子など) 5	成長 4
	娘 ↓ 父	25	勉強・受験・進学 10	学校生活 (幼稚園・ 保育園含む) 10	部活・スポーツ 8
	息子 ↓ 母	15	学校生活 (幼稚園・ 保育園含む) 6	育児・教育・しつけ 4	勉強・受験・進学/ 健康 3
	娘	35	学校生活	勉強・受験・進学	家庭生活

	↓ 母		(幼稚園・ 保育園含む) 14	11	(出来事、家庭での 様子など) 7
子 代	全 体	100	学校生活 (幼稚園・ 保育園含む) 35	成長 24	勉強・受験・進学/ 健康 21
	息子 ↓ 父	28	学校生活 (幼稚園・ 保育園含む) 10	勉強・受験・進学 6	成長 6
	娘 ↓ 父	4	学校生活 (幼稚園・ 保育園含む) 2	家庭生活 (出来事、家庭での 様子など) 1	成長/健康 1
	息子 ↓ 母	22	学校生活 (幼稚園・ 保育園含む) 7	成長 7	健康 5
	娘 ↓ 母	46	学校生活 (幼稚園・ 保育園含む) 16	習い事 14	育児・教育・しつけ 12

「親」(65歳以上の高齢者)と「孫」(中高生)の話題も「学校生活」

◎「親」(65歳以上の高齢者)と「孫」(中高生)の間の話題も「学校生活」。他には「遊び」「友達」「部活・スポーツ」。

◎「孫」(中高生)が「祖父母と話していて楽しい」「もっと聞きたい」のは、「親」の子供時代、戦争体験など「昔の話」が上げられているが、調査時期(8月中旬)の影響が出ている可能性もある。

▼「親孫」のコミュニケーション頻度

(回数/年)

※ただし、手紙のみ通数/年

N	顔を	電話する	手紙を	携帯電話	FAX	Eメール
---	----	------	-----	------	-----	------

		合わせる 頻度	頻度	出す 頻度	所有者	頻度	所有者	頻度	所有者	頻度	
親 65 歳 以 上 の 高 齢 者	全 体	100	90.3	23.3	1.2	27.0	4.0	45.0	2.8	16.0	0.7
	孫 と 同 居	16	350.9	3.9	0.6	1.0	0.0	9.0	0.0	1.0	0.0
	小 計										
	孫 と 別 居	84	40.6	27.0	1.3	26.0	4.2	36.0	3.4	15.0	2.6
	小 計										

▼「親孫」のコミュニケーション内容

単位:人

	N	会話の内容			
		1位	2位	3位	
親 65 歳 以 上 の 高 齢 者	全体	100	学校生活 (幼稚園・保育園含む) 34	遊び 20	友達 19
	祖父 ↓ 男児	29	遊び 9	学校生活 (幼稚園・保育園含む) 6	友達/ 部活・スポーツ 5
	祖父 ↓ 女兒	21	学校生活 (幼稚園・保育園含む) 11	習い事 4	家族のこと 4
	祖母	29	学校生活	勉強・受験・進学	遊び/友達

	↓ 男児		(幼稚園・保育園含む) 8	6	5
	祖母 ↓ 女兒	21	学校生活 (幼稚園・保育園含む) 9	友達 6	遊び/ 勉強・受験・進学 3
孫 中高生	全体	30	学校生活 (幼稚園・保育園含む) 16	部活・スポーツ 13	勉強・受験・進学 9
	男子	14	学校生活 (幼稚園・保育園含む) 9	部活・スポーツ 7	勉強・受験・進学 3
	女子	16	学校生活 (幼稚園・保育園含む) 7	部活・スポーツ 6	勉強・受験・進学 6

		N	楽しかった／もっと聞きたい話		
			1位	2位	3位
孫 中高生	全体	30	昔の話 (祖父母の子供時代、戦争など) 10	趣味 6	親の子供時代 5
	男子	14	昔の話 (祖父母の子供時代、戦争など) 5	趣味 4	旅行 2
	女子	16	昔の話 (祖父母の子供時代、戦争など) 5	親の子供時代 4	趣味 2

「敬老の日」のプレゼントは、「みんなで食事」が一番。

「子」世代には、「親」に贈りたいもの。「親」世代には、敬老の日に「子」や「孫」からしてもらっていること。そして、いままでにしてもらって嬉しかったことを質問した。

◎「敬老の日のお祝い」で最も多いのは「外食・食事」。してもらって嬉しかったことでも、一番にあげられている。「子供達、その家族全員での食事会」などの回答が多数見られ、やはり、孫

を含めて集まって食事できたことが喜ばれているようである。

◎「親」が嬉しく、「子」が贈りたいものは、「旅行」、「孫からの絵、手紙」など。

◎「敬老の日」のプレゼントとしては、食事や旅行、花も喜ばれるが、やはり「電話」「手紙」「絵」など「孫」からのメッセージが喜んでもらえるポイントになりそうである。

▼「敬老の日」プレゼント

単位：人

	親 65歳以上の高齢者 (N=100)		子 30~40代 (N=100)	孫 中高生 (N=30)
	してもらったこと／ もらったもの	(して)もらって 嬉しかったこと	贈りたいと 思うもの	してあげたいこと／ プレゼント したいもの
1位	外食・食事 23	外食・食事 26	旅行 15	電話・話 5
2位	手紙・ メッセージ カード 18	孫からの絵、 手紙など 17	孫からの絵、 手紙など 14	肩たたき・ マッサージ 5
3位	電話・FAX・ メール 9	旅行 11	花 14	絵、手紙 4
4位	衣類 9	孫からの プレゼント 6	食品・酒類・ 飲料 14	花 4
5位	花 8	孫の訪問 5	衣類 13	手伝い 4

(ご参考1)

博報堂エルダービジネス推進室

昨年6月に設立。日本が急速に超高齢社会に向かうなか、情報コミュニケーション

・マーケティングに関する開発・支援などのエルダー対応を推進中。

エルダーズライフ／介護／ユニバーサルデザインの3領域が対象です。

エルダー世代

ここでは、エルダー世代を 50 歳以上と規定しています。

国連の規定で 65 歳以上が高齢者とされていますが、一方で団塊の世代の動向も注目をされています。博報堂エルダービジネス推進室はそのすべてをエルダー生活者ととらえ、これからどのような変化が起きていくのか、社会全体に対してどのような影響を及ぼすのかを探っています。

(ご参考 2)HOPE レポート・「情報縁」

■ニューエルダーに迫るキーワードは「情報縁」

これまでの「枯れていく」老後観とは異なった、元気で意欲的な「ニューエルダー」。

より広い人々との「関係」を重視し、社会問題も含めた広い関心事を持ち、新しいメディアを積極的に活用しようとしている「ニューエルダー」へはどのようなアプローチが有効でしょうか？

そのために、考えておきたいキーワードがあります。それは「**情報縁**」。

すなわち、「マスメディアあるいは携帯電話・パソコンなど新しいメディアを活用し、「健康・環境・趣味」など「関心事」についての情報をメディアから入手・交換」しつつ、「仲間づくり」をするという、彼らの新しい縁づくり＝「**情報縁**」づくりを応援するという考え方です。

さらに、その縁づくりの場は、エルダー世代にとって接しやすく使いやすい場であることが、大切です。例えば「商品説明ツールも広告表現もユニバーサルデザインでわかりやすく」といった気づかいをしていくことが、小さいけれど、重要になります。

縁づくりのメディアの 1 つとなる「IT」機器もユニバーサルデザイン対応が求められます。

彼らのコミュニケーションの場としての「インターネットサイト」の積極的活用とユニバーサルデザイン対応も視点の 1 つでしょう。

「情報縁」でニューエルダーの人たちをつなぎ、彼らの生活をより楽しく、活性化させるという視点に、企業からのアプローチのヒントがあると私たちは考えます。

